

M.フーコーの系譜学と圏論

——『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』を例として——

広島郵便局 大山智徳

1 目的

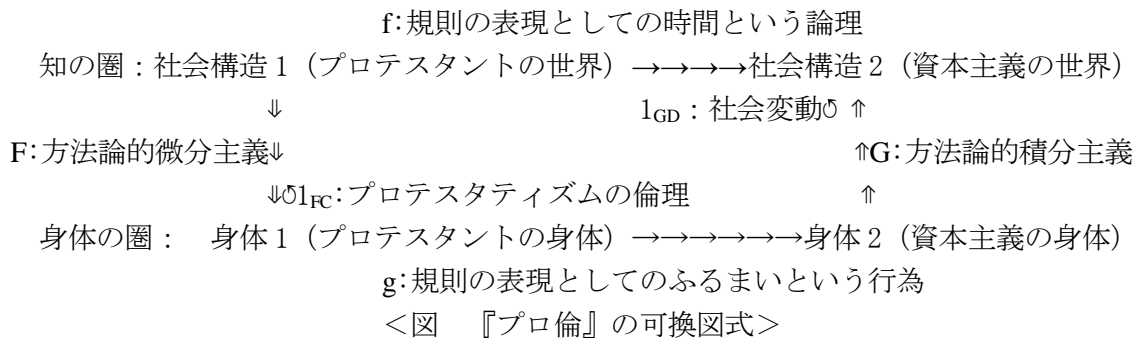
この報告の目的は、M.フーコーの系譜学を、射と可換図式からなる新しい数学である圏論の随伴の部分的表現と解釈し、M.ウェーバーの『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』(以下、『プロ倫』と表記。)を例に圏論が社会学においてもいい性質をもっていることを示す。いい性質とは、よりシンプルで、規範性と普遍性とを備えた性質をいう。また、M.フーコーの系譜学とは3つの特徴をもつ。論理の徹底化によるパロディー、組織的なアイデンティティの解体及び認識主体の死である。

2 方法

そこで、『プロ倫』のいくつかの主要な概念を数学者S.アウディの示した随伴に代入しやすいようにプロテスタントの世界と身体、資本主義の精神と資本主義の世界等に変換し、その結果を解釈する。

3 結果

分析の結果、プロテスタントの世界という組織的なアイデンティティが、教義の徹底化というパロディーによって解体され、プロテスタントの倫理を備えた認識主体は死を迎えた。系譜学の遂行である。その後、新たな認識主体として資本主義の精神が誕生し、その結果、資本主義という世界が出現した。これは随伴のもつ対称性による自然な解釈であり、系譜学<以後>と解釈できる。なお、このことは、圏論の本質である射と可換図式として下図のように表現される。倫理と社会変動は射となる。



4 結論

以上から、圏論の随伴へ系譜学と『プロ倫』を代入することで、プロテスタンティズムの倫理と社会変動が双対に現象する恒等射である等、圏論が社会学においていい性質をもっていることを示せた。

文献

Awodey, S., 2010, (=2015, 前原和寿訳『圏論 第二版』共立出版株式.)

Weber, M., 1904-5, (=1989, 大塚久雄訳, 『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』岩波書店.)

Foucault, M., 1971, (=1999, 伊藤晃訳), 「ニーチェ、系譜学、歴史」『ミシェル・フーコー思考集成 IV』11-38.)

落合仁司, 2015, 「社会と行為 —コールマン・ボートとマクロ・ミクロ・リンク」『理論と方法』30(1): 117-125.